○岡山城東高校課題研究発表会

２月３日（金）に開催された岡山県立岡山城東高等学校課題研究発表会に２年生より３グループ７名が参加した。自身の課題研究の成果を，スライド資料を用いたプレゼンテーションの形式で岡山城東高校生，教職員，大学教授の前で発表した。教室に入りきらないくらい多くの人々に見に来ていただき，発表後には活発な質疑応答が行われた。普段はなかなか関わることのできない他校の生徒との交流を通じて，課題への様々なアプローチの仕方，社会問題を知るきかっけとなった。

＜発表概要＞

①B グループ

研究テーマ：

県別の LGBTQ＋への理解度からみる LGBTQ+の理解向上に向けての考察

概要：

日本では性的マイノリティへの理解が乏しい。本研究は都道府県ごとの性的マイノリティへの理解度を教育面，企業面，行政面から測ることを目的に行った。多角的な視点から性的マイノリティへの理解の促進を目指す。

②C グループ

研究テーマ：

女性の社会進出と経済成長を促す制度～日本の経済成長のためには女性の登用は必須か～

概要：

経済停滞に直面している日本は，男女格差の縮小と女性労働参加率の向上により，労働力不足の補填，ひいては経済成長を期待できる。日本の将来を担う私達が，女性の社会進出に関する制度と問題点を知ることが必要だ。

③F グループ

研究テーマ：

現代の町内会の現状と課題

概要：

町内会は，地域の情報交換や防災等の重要な役割があるが，近年加入率の減少，役員の高齢化，若者の関心の低下等の問題を抱えている。これらの解決のために，若者と防災に注目して理想の町内会と活動方針を立てた。

○探究活動プレゼンテーションアワード（岡山県立玉島高等学校）

令和４年４月１６日（土）に第３回探究活動プレゼンテーションアワードが開催され，２年生２グループ７名が参加した。また，令和５年１月２８日（土）には第４回探究活動プレゼンテーションアワードが開催され，２年生２グループ５名が参加した。自身の課題研究の成果を，ポスタープレゼンテーションの形式で岡山県の高校生，教職員，大学教授の前で発表した。発表のあとには活発な質疑応答が行われた。普段はなかなか関わることのできない他校の生徒との交流を通じて，課題への様々なアプローチの仕方，社会問題を知るきかっけとなった。

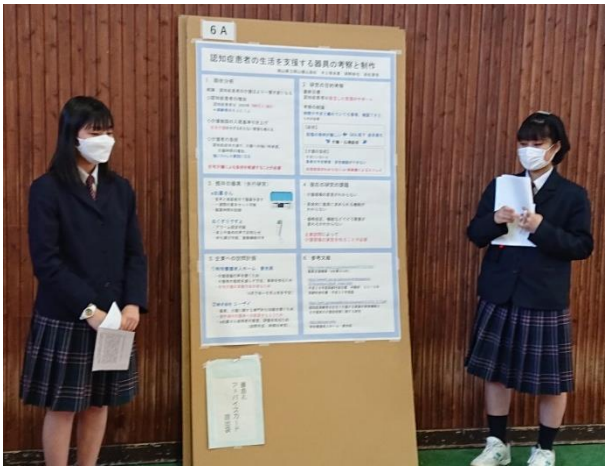
＜参加した生徒の感想（抜粋）＞

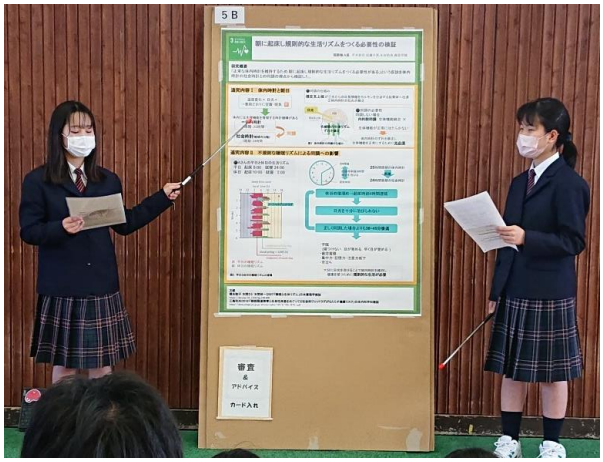
・自分の発表を外部の人に発表する機会があったことで，自分の追究学習を進める事ができました。色々な学校の人や専門機関の方もいたので，幅広い意見を聞くことができて，今後の方針を考えることに役立った。また，他の人の研究を見学し，自分の興味関心の幅を広げ，新たに様々なことを学べた。初めてこのようなプレゼンテーションに参加したが，自分の研究を伝えることで，今までの追究をやってきて良かったと感じた。未来航路の追究学習のゴールとしてプレゼンテーションがあるのではなく，通過地点として定め，これからの追究がより深まるように積極的に参加していきたい。今後は，このプレゼンテーションでもらったアドバイスを生かして，追究活動を行っていきたいです。

・今回のプレゼンテーションアワードを通して自分の発表能力，そして他の研究に対して質問を

する能力を伸ばすことができた。まず自分の発表としては，広い会場で適切な声量で発表し，聴衆の様子を見ながら話す速度や調子を変えることを意識して話した。他のグループの発表を聞きつつ，自分の発表ではどのように工夫したら聞きやすいかなど考えることもできた。面白かった，よく考えられていると思ったという意見を貰った時は大変嬉しかった。　また他のグループの発表を聞く時は，相手の研究への理解を深めるために積極的に質問をするようにした。ディスカッションというよりは時間制限のある発表形式だったので，どうしても聴衆は受動的になってしまうが，質問を通して他の研究者とテーマについて考えることができたと思う。

・１年生のときにも参加したが，そのときは現状分析のみで実際に器具の製作には取り掛かっていなかったため不完全燃焼的な感じで終わってしまった。しかし，今回，文献調査とアンケート調査を行い，器具製作を行った上で発表をしたため達成感があった。発表会に参加したチームはどの人もプレゼンテーション能力が高かったように思う。自分たちで企画したことを熱意を持って伝えようとする姿勢が感じられた。製作を行ったところは実物を持ってきている人が多く，よりわかりやすい発表になっていた。また，より魅力的なテーマの班により人が集まっており，研究内容とテーマ名が同等ぐらいで評価されているように感じた。確かに魅力的なテーマは人を惹きつけるが，テーマが研究の中身すべてを表し，決定するはずがないため，今後自分が個人や団体の研究発表を評価するときには，あくまでテーマはその研究に付随するものとして，研究内容（論理が通っているのか，調査方法や製作）を中心に考えようと思う。





・<u>大学との連携</u>

８月１日（月），２日（火）の二日間にわたり，昨年度同様，関西学院大学の協力のもと，グローバル合宿を開催した。３年前までは関西学院大学にて８月の夏休み期間を利用して行っていたが，今年度は昨年度同様，新型コロナウイルスの影響を鑑み，本校及びプラザホテルにて実施した。関西学院大学・名古屋大学・愛知淑徳大学・兵庫教育大学・IHI 株式会社より７名の講師陣を迎え，関西学院大学において実際に行われている「国際情報分析」を，講義や実習，発表等を通じて学んだ。本校より１５名の国際塾生が参加した。初日は，本校にて大学教員による国際情

報分析の方法及び意義についての講演をいただいた後，テーマ別に３つのグループに分かれ，グループごとに大学教員・企業人・大学院生の指導のもと，本校及びプラザホテルを会場にChromebook や書籍を利用して調査・分析・発表資料の作成を行った。二日目は本校にて分析・発表準備の続きを行い，午後にはグループごとにスライド資料を用いたプレゼンテーションを行った。最後にグローバル合宿に携わってくださった講師陣より指導・講評をいただいた。本合宿を通して，一つの物事を多角的に見ることの重要性を，実践を交えながら学ぶことができ，大変充実した二日間を過ごすことができた。

今年度はロシアとウクライナの戦争を軸に以下の３つのテーマで演習に取り組んだ。

＜テーマ一覧＞

・「ウクライナでの戦争を最も望んでいたのはアメリカだ」は本当か？

・「ロシアが世界の中で孤立している」それは事実か？

・プーチンは狂人か愛国者か？～2000 年のプーチン大統領登場から～

〇詳細

1　期　日　　令和４年８月１日（月）９：３０ ～２日（火） １５：３０ごろ【一泊二日】

2　場　所　　岡山県立岡山操山高等学校（岡山市中区浜４１２番地）
岡山プラザホテル（岡山市中区浜２－３－１２）
※１人１部屋を使用しての宿泊を予定しています。

3　参加者　　生徒： ＳＯＺＡＮ国際塾の塾生のうち希望者（１５名）
教員： ＳＯＺＡＮ国際塾担当教員（平松・藤田・デイビッド）
外部講師：関西学院大学国際学部　關谷　武司　教授
名古屋大学大学院国際開発研究科　芦田　明美　准教授
愛知淑徳大学交流文化学部　江嵜　那留穂　講師
兵庫教育大学大学院　吉田　夏帆　講師
IHI 株式会社　中村　静香
関西学院大学国際学部　中島　小都葉（学部生）
関西学院大学国際学部　　徳久阪　葵（学部生）

4　目　的　　「深い探究による情報の分析」をテーマに，外部講師による講義や，仲間とのディスカッションを通して，課題研究を深化させる。また，本校の育成すべき「６つの資質・能力」の向上を目指すものとする。

5　費　用　　WWL 予算より支出（食事代を除く）

6　日　程

8月1日（月）

9:30	生徒集合＠LL教室
10:00～11:30	演習（LL教室）
11:30～12:30	昼食
12:30～17:00	演習（岡山操山高校図書館）
17:00～18:00	岡山プラザホテルチェックイン
18:00～19:00	夕食
19:00～22:00	演習（適宜入浴）＠ホテルの会議室
22:00～23:00	発表準備（準備が終わった人から就寝）
23:00	就寝

8月2日（火）

7:00	起床・身支度
7:30～8:30	朝食
9:00～11:30	発表準備（LL教室）
11:30～12:30	昼食
12:30～15:00	発表，質疑応答，相互評価，講評（LL教室）
15:30	解散

○参加した生徒の感想（抜粋）

１．講義・演習を通じて学んだこと・感じたこと

・講義や演習を通して，ある一つの事柄について今までは一つの観点にしか注目せず，色々な視点から一つの事柄について自分の考えを深めたり，他の事柄と関連付けたりすることができるようになった。またその考えを同じ班の人と共有して，新たな視点や事柄に気づくことができた。

・今回のテーマは，はじめはニュースで見たことがあるという程度しか知らなかった。しかし，調べていくとどんどん情報が見つかり，考えを深めていくことができた。さらに，自分が調べたところだけでなく，グループの人が調べたことも入れて考えてみると段々と繋がりが見えてきて，情報を分析する中でそのときが特に楽しいなと思った。

・普段目にする情報は事実の影のようなもの，つまり真の事実ではない。そのために報道の意図や背景からそれを探る必要がある。更に他の視点から事実を特定していくことが大切である。また，報道が私達に与えようとする印象と事実を比較して，自分の立場や意見を確立するまでが，今の私達には求められている。

・世界は思っているよりも嘘つきで，自分は気づかないところで騙されて生きてきたのかもしれないと感じました。これからは，情報分析学を身につけて，自分の頭で考えていきたいです。

・今までメディアの情報のすべてを鵜呑みにせず，疑いの目をもつことが大切だと分かってはいたし，

自分は慎重に調べられているだろうと思っていたけれど，先生が紹介してくださった少女の映像を見たり，広告会社と WHO の関わりを知ったりする中で，信じていたほど現実の社会はきれいではないんだと気付かされました。だからこそ，知らずしらずのうちに，見ようとしていなかった情報にも目を向けてみないと真実はわからないのだと実感しました。また，そんな風にまで調べ上げなければ真実にたどり着くのが困難なメディアの現状についても考えていく必要があるのだと強く感じました。初めに想像していた以上に，一つの問いには複雑な事象が絡み合っていて，色々な角度から情報を集めて，少しずつ情報を整理して，そこからさらに議論を重ねてようやく，真実が形を現していくこともわかり，それが大変だからこそ，わかったときの満足感はとても多かったです。

・初めのクウェート侵攻のナイラ証言を聞いた時，あまりの悲劇に心が動いてしまっていて，事実かどうかを確かめようとする頭もなかった。しかし，今この世界に隠されたり見てみぬふりをされて残っている情報が数多あることを知った。また誰かから聞いたことは物を誰かの視点から見た影でしかない，ということを常に念頭において，冷静な自分を持って置けるようにしたいと思った。

・情報を読み取るというのは，ただ単に記事を読んだり，表から読み取ったりするだけではなく，その情報は「どんな人が」「どんな目的で」「どんな背景があって」発信されたものなのかにも着目することが大切なんだなと感じた。

・今回の講義・演習を通して,「情報」というものが怖くなりました。情報は全体の一つだからこそ紛れることができ，事実と虚偽が交わることで，私たちがウソをつかれることもあるし，わたしたちがウソをつくこともできることについて改めて学ぶことができた。でも，それらの情報に対して，どのような環境でどの側面を見ているかなどと，視点をひとつに絞っているからこそであり，いいのか悪いのかということはわからないし，わたしたちがウソをつかれているということも，ちがう視点では正しいことなのかもしれないことがあり，それを配慮して考える事の大切さも学んだ。また，その情報の中にある当事者について，時代背景を考慮したり，その人との対外にいる組織などについても知ることが必要だと思った。正しいことや，良いことは一つではないなと思った。

２．発表を通して学んだこと，感じたこと

・発表ぎりぎりまでスライドを各自で手直しして，結局時間内にすべて発表しきれなかったり，調べきれていないところがあったりしたが，発表が終わったあとにとても達成感を感じた。

・仮説に対して資料を提示し検証する過程がプレゼンに求められている。その時に論理の筋が聞き手の頭の中に順序良く組み立てられるように，資料から読み取れる内容と検証結果を結びつけたプレゼンを意識することが大切である。

・ある一つの出来事を掘り下げていくと，やはり歴史というものはながく，たくさんの出来事が繋がって今に至っているのだなと感じました。私が知らない歴史背景もたくさんあり，普段の授業で取り扱わないことがいがいに鍵になっているということもあるんだなと思いました。

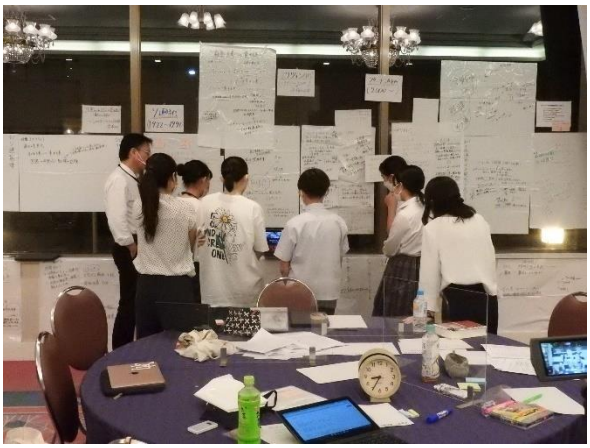
・自分たちの班では，１日半考えに考え尽くして，情報の共通理解ができているけれど，それを初めて聴く人にいかに思考のプロセスを伝えるかを考えることで，自分の理解の不十分さに気づくことが出来ました。他の班の発表を聴き，自分たちの班の内容とつながる部分もあるとわかり，複数の視点

から導き出した結論を踏まえてより強固な結論や新しい疑問を考えるとさらに面白いな，と思いました。また，簡潔な情報をまとめただけのスライドを見るだけで，スラスラと言葉が出てくる自分にもびっくりしました。
・得られた情報を交流させることを特に意識して活動した。始めは，話し合いにかかる時間が多すぎるのではないかと思っていたが，情報交換によって，たとえ違う分野の情報でも，自分の必要としている情報を得られたり，新たな発見があったりして，話し合いやコミュニケーションの大切さを実感することができた。
・今回，グループのみんなでスライドに情報をまとめている時に，自分では思いつかなかった視点から「ここをこうすると聞き手にもっと伝わりやすくなるのではないか。」とアドバイスをもらうことか何度かあった。複数人で協力することで，自分たちが調べたことを 100%聞き手に伝えられるスライドを作ることができた。
・発表の中で多くの事をインターネットや書籍などを通して知った。今まで表面上だけを汲み取って考えているだけで，本当は何もわかっていないんだなと自覚した。誰かと話すときに「～らしいよ」や「～なんだって」とよくいうけれど，それがどんなところから信憑性があるのかなど何も根拠なしに喋っていて，今回の発表を用意するにあたってそのことがどれだけ大切か知ることができた。また，ひとつの課題を考えはときにその是が非かだけではなくてその先を話し合いながら深めていく事，自分の頭でその先にある問題や疑問を考えることはそのことに詳しくなるだけでなく，何故いま私たちにとって行動をすることが必要なのか実感することができた。特にプーチンが狂人であるかないかについて，少なくとも私たち日本人はその印象が強く，それらの理由がウクライナ戦争を筆頭に多くが残虐な行為から生まれる印象であり，それは私たちが「戦争はダメ」という考えからくることで，それらはメディアの主張でも多く散見され，プーチン大統領の実情の考慮はなく，ただ狂人という印象が「戦争は駄目」という考えの中から来ている事を考え，それに対してただその考えを利用されていると思い，その考えが利用されることは今後に必ず影響されるので流れを消さないといけないし，今のメディアと，それに対する私たちの行動も変えていかなければならないと思った。

3. グローバル合宿で得たことを今後の課題研究や日常生活にどのように活かすことができるか
・課題研究でも日常生活でも，私達の周りに溢れている情報を先生に教えていただいた「それほんまなん？」という合言葉を意識し，情報を鵜呑みにしないようにするというところで活かせると思う。
・テーマに関する教養が増えただけではなく，政治や経済に対する見方も変わった。また論理の組み立て方，資料の読み取りや活用の仕方のスキルも高められたと思う。それだけではなく，追求と調べ学習の違いに気が付けた。合宿のようにパソコンの画面に留まらず壁一面を使うくらい情報を収集して，そこから仮説の検証，結論に対する自分の立場というところまで追求できればと思う。
・日本語検索ではなく，アメリカやロシアなど多言語で調べることによって，普段私達に染み付いている価値観というものが変化してたくさんの考え方をすることができるようになり，研究や生活でも自分の物事に対する視野が広がるのではないかと思います。
・日頃ニュースを見たり，新聞やネットニュースを読んだりする時，情報を受け取ったその瞬間の直

感だけで終わらせるのではなく，その記事から疑問を広げていき，事象の真実を知った上で，物事の善悪や関与した人々へのイメージを考えたいと思いました。また，今までの追究学習では，きっと気づかないうちに，自分の都合の良い情報や一般的な内容ばかりを見ていた用に感じたので，マイナーなサイトにも目を向けたいと思いました。

・限られた時間の中での活動で，時間を有効に使うことの必要性を強く感じた。ただ効率的にやろうと意識するだけではなく，この時間までにこの段階に進もう，と具体的に定めることが大切だと感じた。また，それをグループの仲間と共有することも同じ位大切だった。話し合うことで自分との意見や方向性の認識のズレにも気づくことができるなと思った。

・新聞やニュースを，本当にこの情報はあっているのだろうか。違うとしたらなぜ嘘の情報が発信される状況になっているのかに注目しながら，今までよりも深く考えながら見ることができるようになった。課題研究のときだけでなく，日頃から情報を批判的に受け取ることを意識したい。

・情報を自分の中でどのように処理するかが，これから私たちがこの世の中に生きていく上で本当に大切な事を学び，今後は知っていくだけでなく，その事のたくさんの情報の中から自分で抽出していき，それを今後の発表にも活かしていきたいと思う。また，友達とより深めていけるように話し合ったり，考えを整理するために書き出したりすることも実践していきたい。特に今回の発表内容を研究して，世界を鏡に日本を見ていきたいなと思った。グローバル化によって外ばかりを見る傾向があったが，世界で起こっている事を日本で見るということが必要だなと思った。